

# ちょっと勉強になった話

## —日本語教師養成講座で学んだこと—

栗田 明

(浜松日本語学院日本語教師養成講座)

私はこの養成講座で学んだ面白い知識について、述べたいと思います。

なぜかという、私の出身は中国です。中国人なのに、中国に関する文化が日本の学校で始めて知られて、面白いと思わないですか。

例えば、前授業で習った「漢字」のことですが、甲骨文字、篆書（絵と字の中間）、隸書（はんこ）、楷書（丁寧を書く）及び象形文字などについて、今まで聞いたことがあるんですが、興味が全然なかった。授業を受ける時、先生の説明が中国のネットで調べたら「本当その通りだ」。その時、自分はどの国の人？ 自分に疑問になりました。すごく勉強不足だと実感しました。家に帰ったら、電話で中国に住んでいるお姉ちゃんに授業のことを話しました。お姉ちゃんも、すごいですね、と楽しそうに言ってくれました。今後、きっとこの知識を知らない人がいっぱいいるだろう、中国の友達であれ、日本の友達であれ、自慢な話題として、友達に教えたいと思います。

また、日本語の「表記」について、述べたいと思います。

音声学の時も初めて、音と表記が一致しないことがわかりました。これは私たち外国人にとって非常に難しいと思います。例えば、「洗濯機」は母音が無

声化して発音は「せんたつき」、「音楽会」は「おんがっかい」など、漢字に振り

仮名を付けるような場合、促音での表記がずれて感じられることもあります。

助詞「は」「を」「へ」で、「わ」「お」「え」と書かない。動詞「言う」は「いう」と書く。「ゆう」と書かない。いままで「謎」と思いましたが、結局授業で「表記の慣習を尊重」ということだ。

今は、頭の中でもものすごく疲れているけれど、楽しいこともいっぱいあります。とっても充実感があります。先生たちとクラスメイトたちのおかげで私の日本語が成長しているかなと思います。これからもよろしくお願いします。

(754字)

(2022.6 たどくのひろば掲載)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典:「たどくのひろば」(<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.